

水稻の生育は5日遅れ 生育を促進する管理の徹底を！

J A たきかわ 営農部
空知農業改良普及センター中空知支所滝川分室

1 6月15日現在の生育状況

- 6月15日現在の稲の生育進度は、6月に入ってからの低温日照不足により、平年より5日遅れています。苗質（徒長傾向）と併せ、遅植や深植、降霜、移植後の強風による折損などにより、分けつの発生が緩慢な状況となっています。
- 当面、幼穂形成期までの間、稲の生育や土壌還元の状態を踏まえ、分けつを促進させる水管理に努めて下さい。

調査項目	平成18年	平 年 値	差
草 丈 (c m)	25.1	27.5	-2.4
葉 数 (葉)	6.7	7.4	-0.7
分けつ (本/株)	6.7	12.1	-5.4
幼 穂 形 成 期	—	6月29日	—

※きらら397
成苗ポット

2 当面の水管理

- 幼穂形成期の概ね5日程度前までは日照の見込める時は2～3cmの浅水とし、水温上昇に努め、分けつ促進の水管理を実施します。

<参考>きらら397の莖数

◇調査時期の莖数が目安より少ない場合、分けつ促進の水管理を

株 間 (cm)	栽植密度 (株/m ²)	調 査 時 期		
		月 日	6月25日	6月30日
14	22	本/m ² の目安	575	750
		本/株の目安	26	34
13	23		25	32

- 水田への入水時間帯は、用水の水温と水田の水温の差が小さい夜間から早朝に入水します。

3 「ワキ」と中干し

- 本年はほ場の乾燥が進み、ワキの発生は少ないようです。中干しは生育を遅らせます。ワキの発生も少ないことから現時点では避けましょう。
- やむを得ずワキの影響が懸念される場合のみ、中干しを行うこととしますが、必ず溝切りを併用して、早急な落水・乾燥化を図りましょう。

農作業事故、農薬の危被害防止対策の徹底を